

IVHポート(CVポート)について

在宅で療養する際の使用頻度が高まっているため、手技や注意点などをご説明します。

IVHポートとは？

IVHポートは血管内に点滴や薬物を注入するための医療機器である。皮膚の下に埋め込むため、その部分は少し盛り上がるが、基本的には普段通りの生活を送ることができる。管理が容易なので、医師の指導のもと家庭で点滴を行うことも可能。

ポートは直径2～3cmの円盤形で、中央のセプタムと呼ばれる部分はシリコンゴムできており、カテーテルという細い管が血管内につながっている。

点滴などを行うときはセプタムに専用の針を刺してカテーテルを通して血管内に注入される。



埋め込まれる場所

局所麻酔での手術で、一般的には鎖骨の少し下の皮膚の下に埋め込まれる。カテーテルの先端は心臓の手前の太い血管(上大静脈)に置かれる。太い血管のことをCV(中心静脈)といい、CVに点滴をすることをIVH(中心静脈栄養)という。



利点 常に血管内に管が入っている状態なので、いつでもすぐに点滴や薬物の注入ができる。また太い血管なので、通常の点滴よりも栄養の濃い点滴をすることが可能である。

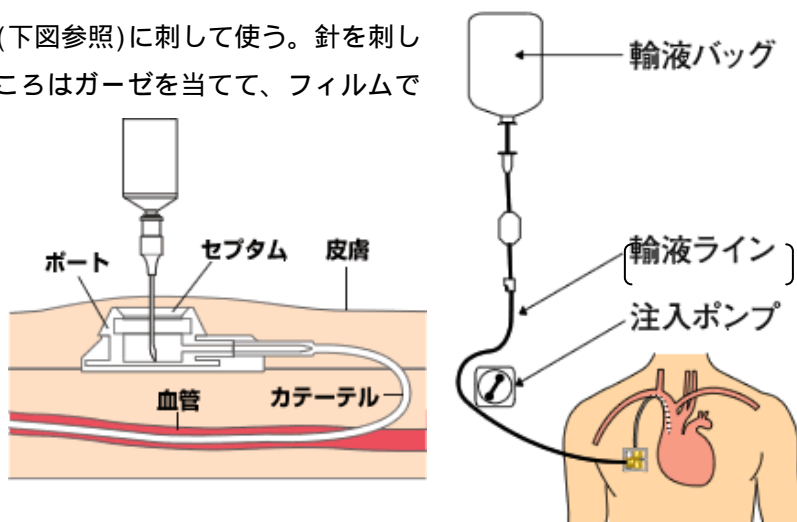
腕などの細い血管では濃い点滴をすると炎症を起こしてしまいます。

使用方法

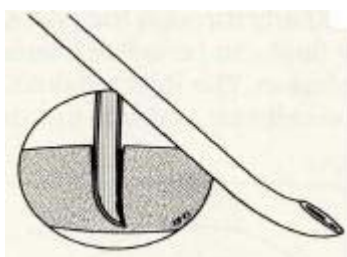
専用の針(ヒューバー針)をセプタム(下図参照)に刺して使う。針を刺したら点滴をつなぎ、針が刺してあるところはガーゼを当てて、フィルムで覆っておく。

(針を固定するためと、刺している部分が汚れないようにするため)

専用の針(ヒューバー針)でない
とポートが壊れてしまいます。

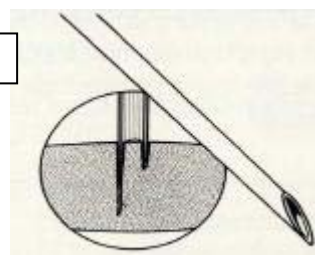


ヒューバー針



針穴が横向きなのでシリコンゴムが割れない

通常の針

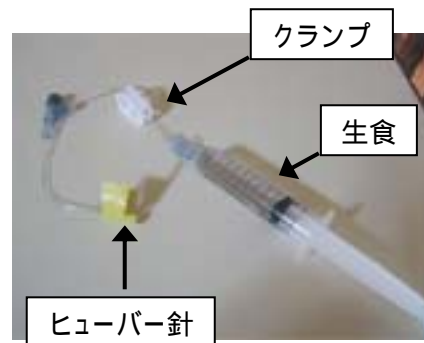


針穴が下向きなのでシリコンゴムが割れてしまう

ポートの使い方の実際

ヒューパー針と生理食塩水(以下生食)または抗凝固剤入りの生食(ヘパリン生食)いずれか 10ml を準備し、点滴セットも作っておく。

ポートの盛り上がった部分をイソジンで消毒する。



消毒した部分を触らないようにポートの外側の部分をつまんで、セプタムの中央にヒューパー針を垂直に刺す。この時、ポートの底に針が当たるとカチンという感覚がある。カチンというまでしっかりと刺し込む。針の羽の部分は皮膚から 2mm 程度浮く。 **刺し込みが弱いと点滴が漏れてしまいます！**

一度注射器を引いて、血液が逆流してくるか確かめる。血液の逆流を確認したら生食(またはヘパリン生食)を全て注入する。(左下図) **ポートの種類によっては逆流しないように作られているものもある。そのような種類の場合は逆流を確認せずに生食を注入する。**

針に付いている管を閉じる(クランプする)。切れ込みを入れたガーゼを針の周りに下図のように置き、さらにガーゼを重ねるかフィルムで覆う。



使った注射器を外し、点滴をつなぐ。しっかりクランプしておかないと、空気が入ってしまう。クランプを解除し点滴を開始する。

点滴終了後は のように血液の逆流を確認して生食を注入する。注入が終わったらポートの外側を押さえて針をまっすぐに抜く。 自分の手を刺さないように注意！

こんなことがあったら医師の診察を！！

- ◆ ポートの周囲が腫れてきた・赤くなってきた。
- ◆ 点滴が流れなかったり、生食を流すときに強い抵抗があったりする。
- ◆ 血液の逆流を確認した際、血液の塊のようなものが引けてきた。
- ◆ 原因不明の熱が続く。

etc...

【出典】(株)メディコン社 HP <http://www.medicon.co.jp>
社会福祉法人 松美会 アイユウの苑 HP <http://www.shoubikai.or.jp/index.html>

この記事・写真等は、(株)メディコン、社会福祉法人松美会の許諾を得た上で転載しています。